

あんぜんだより

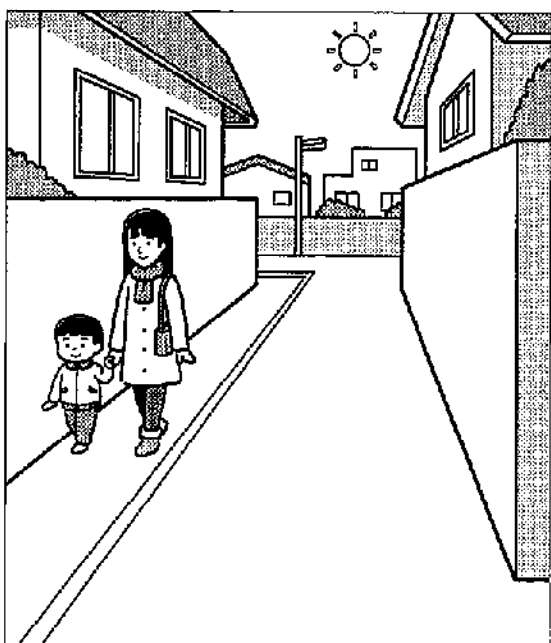
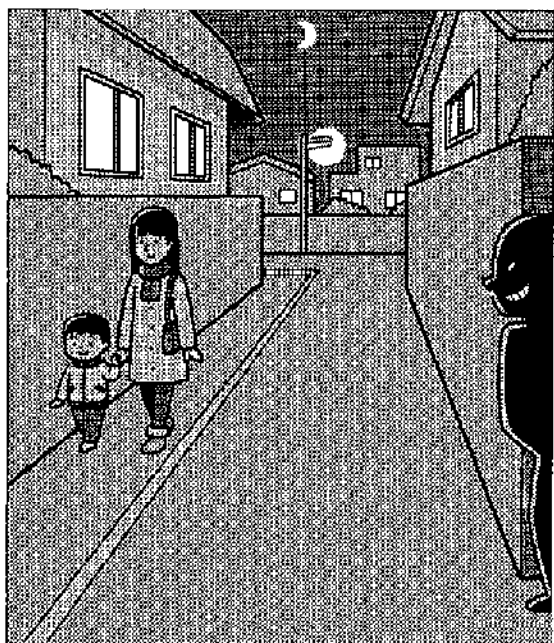
監修 全国学校安全教育研究会／東京都江東区立大高幼稚園 園長 村田有美子先生



暗い夜道は危険！ 明るいうちに帰宅しましょう

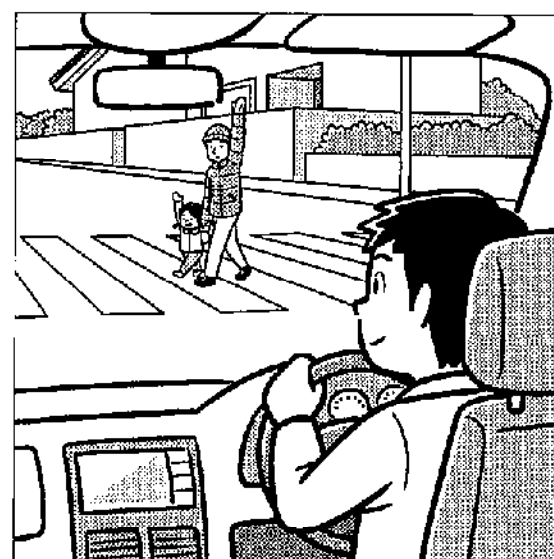
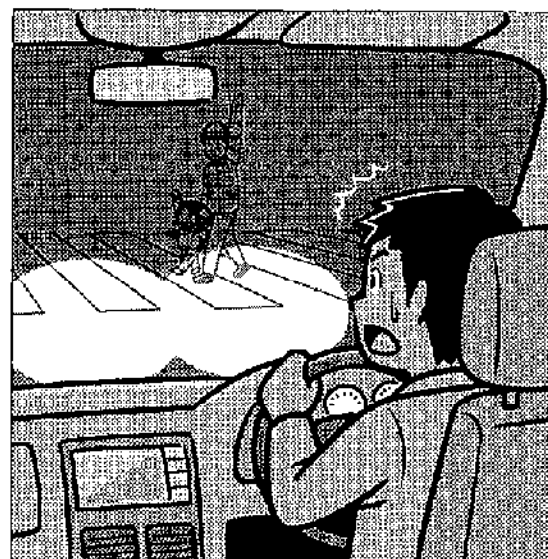
暗い夜道では、犯罪や交通事故に遭う危険が高まります。特に日照時間の短い冬の時期は、太陽が傾き始めると、あっという間に暗くなってしまいます。子どもと一緒に外出時には、まだ明るいうちに帰宅するように心がけましょう。

くらい よみちは あぶないよ



くらいと まわりが みえにくいから
こわい ひとが かくれて いても
きが つかないかも しれないよ。

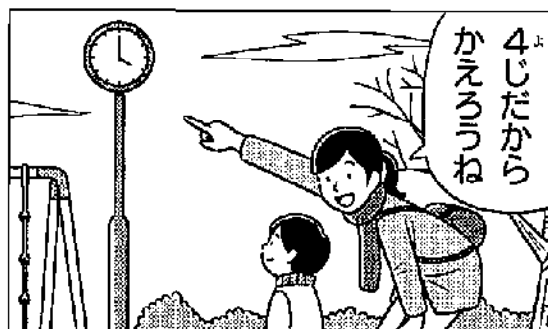
保護者の方へ 暗い夜道は見通しが悪く、子どもはもちろん、大人であっても犯罪に巻き込まれる可能性が高くなります。用事などで、どうしても帰宅が遅くなってしまう時には、周囲の安全を確かめながら、できるだけ人通りのある明るい道を通ることと、いざという時のために防犯ブザーを携帯するようにしましょう。



くらいと くるまの うんてんしゅから
きづいて もらいにくく なるよ。

保護者の方へ 年間を通して、歩行者が交通事故に遭いやすいのは、「薄暮時間帯」と呼ばれる日没前後1時間で、横断中の事故が9割を占めています。視界が悪くなることで、歩行者、自動車、自転車がお互いに気づきにくくなるからです。明るい色の服装や、反射材などを身につけ、自分の存在を知らせるようにしましょう。

あかるい うちに いえに かえろう

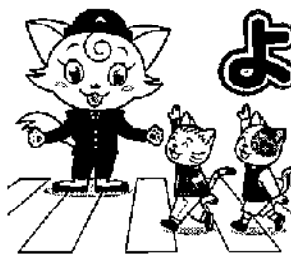


ふゆは すぐに くらくなるから
あかるい うちに いえに つこう。

保護者の方へ 冬は日没が早く、太陽の位置も低い角度にあるため、日が傾き出したら、すぐに暗くなります。公園などで遊び始める前には、親子で時計を指差して「短い針が〇〇、長い針が〇〇のところまで来たら帰ろうね」と具体的な言葉で約束して、明るいうちに確実に帰宅できるようにしましょう。



2月号では、「知らない人に声をかけられた時」について取り上げます。



今月の掲示用ニュース 指導例

ねらい 薄暮時間帯の危険を知らせ、明るいうちに帰宅することを促す



早く帰らなければいけないのかな。
【左のイラストを見せながら】 暗い夜道を帰るお父さんと子どもがいるよ。後ろから車が近づいてきたけれど、2人は暗いところにいるから、車からはよく見えないんだ。もし道路を急いで渡ったら、車にひかれてしまうかもしれないよ。
【中央のイラストを見せながら】 暗い夜道を帰るお母さんと子どもがいるよ。電信柱のそばに誰かがいるよ。もしかしたら怖い人かもしれないね。
【右のイラスト群を見せながら】 明るいと周りもよく見えるし、ほかの車や自転車からもよく見えるから、安心して帰れるね。明るいうちに早く帰ろうね。

展開例

冬になると、お日さまが早く沈んで、すぐに暗くなるね。みんなは、暗くなる前におうちに帰っているのかな。でも、なんで

薄暮時間の歩行者の事故を防ぐには……

～「気づかれる歩行者」になろう～

警察庁の統計によると、月別の交通死亡事故は秋から冬(10～12月)にかけての薄暮時間帯(17～19時台)が最も多くなるようです。長かった昼間の時間も秋を過ぎると急に短くなり、夕闇によって歩行者も車などの運転者も周囲の様子が見えにくくなります。いつまでも明るくてよく見えていた夏の頃のつもりでいると、この視界の変化に対応できず、事故につながりやすくなるのでしよう。

なお、薄暮時間帯の自動車と歩行者の死亡事故件数は昼間の約4倍で、この時間帯の事故件数でも半分以上を占めます。そのうちの約9割が「道路横断中」で、「横断歩道外」「横断禁止場所」「走行車両の直前直後の横断」が横断中の事故の半数以上で、横断歩道やその近くを横断して

の死亡事故も全体の約3割を占めます。

暗くなったら自転車や自動車は早めにライトをつけ、つければ遠くまで見えるようになると思いがちですが、光が当たらない場所は暗くて見えにくいまです。例えば、縦列駐車している車の陰から飛び出したり、街灯の少ない道路などを突然横断したりすると、ライトをつけていても運転者はすぐに気づけません。

それでも、歩行者が懐中電灯を持ち、反射材のついた衣服を身につけていれば運転者は気づけるかもしれませんが、暗色の冬の衣服を身につけているだけだと、気づきにくくなります。

事故に遭いにくい「気づかれる歩行者」になれるように、衣服や持ち物などをいま一度見直してみましょう。

参考「薄暮時間帯における交通事故防止」警察庁Webサイトほか

暗い夜道は危険 明るいうちに帰宅しよう

全国学校安全教育研究会/東京都江東区立大島幼稚園 園長 村田有美子

新しい年を迎えました。春が待ち遠しい季節ですが、寒さはこれからが本番。日没時間もまだ早く、あっという間に暗くなってしまいます。暗い夜道には危険がたくさんあります。暗くなる前に帰宅することが大切です。

暗い夜道での危険を知ろう

暗くなると、交通事故や不審者による事件に巻き込まれる危険が高くなります。歩行者と自動車の交通事故は日没時間の前後1時間の「薄暮時間帯」に多く起きています。死亡事故もほかの時間帯よりも多くなっています。運転手から歩行者が見えにくくなることを子どもにも知らせ、日常から道路を横断するときは高く手をあげ、運転手とアイコンタクトをとることを習慣づけていぎましょう。

普段人通りの多い公園や商店街の道も、夜には人の気配がなくなってしまうことがあります。駐車場や駐輪場も死角になりやすい場所です。周囲からの目がなく見通しも悪い夜間は、ひたたりや誘拐などの事件に巻き込まれる危険も高まります。たとえ保護者がついていても、暗くなる前の帰宅を子どもに促していくことが必要です。

暗くなる前に帰宅できるように

寒い冬も外で体を動かして遊ぶ習慣はとても大切です。しかし、遊びに夢中になってしまつと、なかなか切り上げられなくなってしまつのが子どもの特性です。暗くなる前に帰宅するには、帰りはじめる時間を約束してお

くことが大切です。時計を見ながら「短い針が4、長い針が12になったら帰ろうね」と具体的に示すと、子どもにはわかりやすいですね。「あと5分したら帰るよ」「あと1回滑り台を滑ったらね」など、少し前に予告することや帰るきっかけづくりをするのもよいでしょう。自治体が夕方に鳴らすチャイムもきっかけになりますね。

暗い夜道を歩く時には

明るいうちの帰宅を心がけていても、外出の内容によっては帰宅が遅くなってしまうこともあります。暗い夜道を安全に歩くための注意を、子どもに具体的に伝えましょう。

まず、なるべく人通りの多い、明るくて見通しのよい大通りを選びます。歩道と車道がガードレールなどで仕切られている道だと、より安全です。また、いざという時に逃げ込むことができる場所を普段から知っていることと安心です。

服装も大切です。周囲から見やすい白っぽい服や靴を選び、反射材も身につけるとよいでしょう。また、子どもだけではなく保護者も防犯ブザーを見えやすいところにつけると、危険を知らせる手助けになるだけではなく、周囲に防犯意識の高さをアピールすることにもつながります。

屋夜にかかわらず携帯を操作したり、音楽を聴いたりしながらの「ながら歩き」は最も危険です。大人が率先して警戒心をもって行動することが大切です。